

令和6年度学校経営の改革方針

学校名	津市立雲出小学校	校長名	吉住 秀美
児童数	125 名	学級数	9 学級
		教職員数	17 名

学校教育目標 自分らしく輝き、なかまと共に高まり合う子どもの育成

1 めざす学校像

- 子どもたちが未来を切り開く力を培い、意欲をもって学習や活動に参加する学校
- 子どもも保護者も教職員も互いに認め合い「自分が好き・なかまが好き・雲出が好き」と言える学校
- 子ども、保護者、地域から信頼される学校

2 現状と課題

純朴で人懐っこい児童が多く、好奇心をもって新たな体験を楽しむことができる。児童の多くは落ち着いて学習に取り組んでいるが、基礎的な学力が定着していない児童や、発展的な課題に粘り強く取り組む力が弱い児童もいる。校内研究においては「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる。聴き合える集団を学級づくりの柱として取り組んできた結果、R5児童アンケート「授業中、先生や友だちの話をよく聞いていますか」は95%の回答となったが、「授業中、進んで自分の考えを出せていますか」の回答は70%にとどまっている。

単学級でクラス替えがないため、学級の人間関係が固定化しやすく、友だちに対して、思いこみや決めつけた見方をしてしまう傾向がある。児童アンケート「あなたは、周りから認められていると感じることがありますか」「先生や友だちなどに、自分の気持ちを話したり、相談したりできますか」は肯定的な回答が共に70%台である。一人ひとりの違いを認め合い、自分も友だちも大切にす児童の育成に努めていきたい。

3 重点目標

- (1) 確かな学力の定着・向上
- (2) 「差別を許さない仲間づくり」「自他を大切にできる人権教育」の推進
- (3) 「笑顔まんかいチームくもず」の学校づくり

4 具体的な行動計画

- (1) 確かな学力の定着・向上
 - ① 基礎基本(学びの作法)の徹底・・・学年の実態に応じた少人数教育・TT指導・個別指導の実施
 - ② 授業や家庭学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還による児童が主体となる取組の実施(ICTの活用)
- (2) 「差別を許さない仲間づくり」「自他を大切にできる人権教育」の推進
 - ① 様々な場面で、意図的に人とのかわりについて考えさせる・・・毎日のグループ・ペアでの学習
体験活動・出会い学習・地域学習などから
 - ② 子どものアイデアから発信する活動の充実(児童会・委員会・学級活動等)・・・自己肯定、自己有用感
 - ③ 特別支援教育・多文化共生教育の推進・・・一人ひとりの特性に応じた指導と支援のあり方
外国の文化や生活を尊重する感性や態度を育て、共生の視点を大切にす学び
 - ④ 子どもたちの生活背景を知り、子どもや保護者の思いに寄り添い、ともに考える教育活動の推進
- (3) 「笑顔まんかいチームくもず」の学校づくり
 - ① 地域や保護者に情報を発信し、PTA・学校運営協議会とともに、地域に開かれ、地域とともにある信頼される学校づくりに努める。
 - ② 働きがいを実感し、様々な不安や悩みについて気軽に話し、情報共有することで職員の精神的疲労を軽減する。あわせて職場の健康管理や環境改善、職員の過重労働の縮減に努める。
(時間外労働月 45 時間を超えない)(定時退校日(My)の実施割合 80%以上)(一人あたり休暇取得日数を前年度比1日増の取得)(放課後に開催される会議は1時間以内、17時までに終了する割合 90%)